

## 9 アンモナイトの発掘に人生をかけた追究者 村本 辰雄

### 【中学校第1学年の実践】

#### 1 主題名

あきらめないでやり抜く心【A 希望と勇気、克己と強い意志】

#### 2 教材

アンモナイトの発掘に人生をかけた追究者 村本 辰雄（北海道版道徳教材（中学校用））

#### 3 主題設定の理由【指導観】

##### (1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活や人生を充実したものにす。しかし、目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、失敗を経験することもある。逆境から立ち直り、目標に向かって努力し続けるには、困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢や、失敗にとらわれない柔軟でしなやかな思考、困難を乗り越え最後までやり遂げようとする強い意志を養うことが大切である。

第1学年においては、希望に燃えて大きな目標を立てようとするものの、現実とのギャップに苦しみ悩むことも多い。困難や失敗を悪いこととしてとらえるのではなく、それを乗り越えて目標を達成したときの達成感や成就感を繰り返し味わわせながら、困難や失敗を乗り越えて挑戦し、あきらめずやり抜こうとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

##### (2) 生徒の実態【生徒観】

困難や失敗を乗り越えて挑戦し、あきらめないでやり抜く強い意志を育てるために、道徳の時間（H31からは道徳科）以外では、次のような指導を行っている。

##### ①特別活動「学級活動（学習計画を立てよう）」

目標に向かって計画を立てて実行し、成果と課題を振り返る取組として、学習計画を立て家庭学習を進めることを指導している。具体的には、長期休業前に自らの生活目標や学習目標を立て、1日のタイムスケジュールや毎日取り組む学習内容を決めて、それに沿って生活するよう指導している。

また、年4回の定期テストの前に、生徒が自分の力に合わせた目標点を自ら設定し、計画を立て学習を行いその成果を振り返ることで、今の自分の力を認識し、計画的に実行することの大切さを実感できるよう指導している。より高い目標を立てて取り組む生徒が増えた一方で、計画を立てて学習することが苦手な生徒がいるため、今後は、研修係を中心に計画表の工夫改善を行うなど、生徒がより目標に向かって取り組み、あきらめずにやり抜く経験ができるようにしていく必要がある。

##### ②行事の場面での指導

体育大会や学校祭の場面では、「優勝」「最優秀賞」など、より高い目標に向けて努力しようという意欲や、集団における帰属意識が学級全体で高まるよう指導を行っている。

具体的には、行事において、自己目標を掲示する取組を通して、目標を明確にし、目標を達成できたかどうかを自己評価、相互評価できるようにしている。1つの行事に向かって、あきらめずに取り組む生徒がいる一方で、その後の生活にそれらが生かされていない場面が見られる。行事の場面だけでなく、行事の反省がその後の生徒の生活や道徳的実践につながるよう、継続して指導していくことが課題である。

### (3) 教材について【教材観】

あきらめず強い意志をもって行動することの大切さについて多面的、多角的に考えさせるために、6か月かけてたった1つのノジュールを発見した時の辰雄の気持ちを中心に話し合い、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

本時においては、中心的な発問とそれを効果的にするための基本発問を次のとおり設定する。

#### 1 「◎中心的な発問」の場面

→辰雄がノジュールを発見し「ありました、ありました…」と発言した場面

◆意 図：辰雄がどのような思いで「ありました、ありました…」と発言したかを考えさせることを通して、辰雄があきらめずに化石を探し続けることができた要因を考えられるようにする。発問の際には、辰雄の心情についてより理解を深めさせることをねらい、会話文の箇所を動作化を行う。辰雄の思いを言葉にするのが難しい生徒も、「ありました、ありました…」をどのような言い方で話すかを考えることによって、辰雄の気持ちについて動作化を通して表現できるようにする。教師は、「どうしてそういう言い方にしたのですか？」などと問い返し、生徒が感じ取った辰雄の気持ちを言語化できるようにすることにより、価値理解を深めさせたい。

辰雄の思い：手伝ってくれた人や自然に対するありがとうという思いや、喜びで言葉にならない思い、最後まであきらめなくてよかったという思いや今までの苦労が報われたという思い。

#### 2 「○基本発問」の場面

→辰雄の生き方で最も心を動かされたところを問う

◆意 図：辰雄の生き方で最も心を動かされた場面を問うことで、あきらめないで続けることや達成感を味わうことのよさなど、克己と強い意志についての他者理解や人間理解を深めさせたい。

辰雄の思い：化石が好きだから新しいものを見つけたい、ここでやめたら悔しい、達成感を味わいたいなどの思い。

#### 4 ねらい

村本辰雄の生き方に触れることを通して、困難や失敗を乗り越えて挑戦し、あきらめずやり抜こうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

#### 5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● あきらめた経験やあきらめなくてよかつた経験を思い浮かべる。 ○ 今までで「何かをあきらめた」経験と、「あきらめなくてよかつた」という経験はありませんか。 ・家庭学習の目標を立てたが、一週間であきらめてしまった。 ・部活動で練習を続けたら大事な場面でよいプレーをすることができた。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、自分の経験を想起する場を設ける。	<b>【工夫①】</b> ・本時の主題に関わる問題意識をもたせることで主題に対する生徒の興味・関心を高め、自己を見つめる動機付けを図る。
展 開	● 資料「アンモナイトの発掘に人生をかけた追従者」を読み、話し合う。 ○ 辰雄の生き方で最も心を動かされたところはどのようなところでしょう。 ・化石が好きで、新しいものを見つけたいと思い、夢中で続けたところ。 ・ここでやめたら悔しいと思い、あきらめなかったところ。 ・人生をかけて化石を探し、達成感を味わったところ。 ◎ 辰雄の「ありました、ありました…」という言葉はどのような思いから発せられた言葉でしょうか。 ・手伝ってくれた人や自然にありがとうという思い。 ・喜びで言葉にならない。 ・最後まであきらめなくてよかつたという思い。 ・今までの苦勞が報われた。	・スライドで、「アンモナイトの化石について」「ノジュールについて」の写真を数枚提示し、辰雄の立場に共感し考えながら範読を聞くように伝える。 ・ノジュールを見つけても、その中に望む化石があることはめったにないため、1つの化石を見つけることはとても大変な発見であることを伝える。 ・動作化を通して、辰雄に共感しどのような思いから発せられた言葉かを交流させる。	<b>【工夫②】</b> ・発問の後に、短時間でのグループによる話し合いを随時取り入れ、他者理解を促す。  <b>【工夫③】</b> ・動作化では、辰雄の言葉を生徒に演技模倣させるとともに、そのように演技した理由を問うことにより、価値理解を深めさせる。
	● 自己を見つめる。 ○ この先、どのような場面で辰雄のような達成感を味わってみたいですか。また、そのためには自分には何が必要でしょうか。 ・将来の夢を叶え達成感を味わいたい。そのために、すぐ無理だと思わない折れない心が必要だと思う。 ・習い事で上達して達成感を味わいたい。そのために、夢中になって練習を続けることが大切だと思う。	・ワークシートに記入し、全体で交流させる。 ■ あきらめないでやり遂げる強い意志を持つことの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	<b>【工夫④】</b> ・教材から離れ、道徳的価値について大切にしたいと思ったことを記述させることにより、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めることができるようにする。
終 末	● 振り返りシートを書く。 ○ 本時の授業の振り返りを行い、感じたこと、考えたことを書きましよう。 ● 教師の説話を聞く。 ※教師がこれまでの経験から、努力が思いどおりの結果に結び付かなかつたことや、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けたことについて話をする。	・困難や失敗を乗り越えて挑戦し、あきらめずやり抜こうとする態度が育まれるようにする。	

6 板書

アンモナイトの発掘に人生をかけた 追究者 ~ 村本 辰雄

「あきらめない心」を持って生きる

村本さんのココロ  
・化石が好き  
・珍しいものを見たい  
・人生をかけた  
・ここであきらめたくない  
・達成感を味わいたい

ありました、ありました  
私の探していたアンモナイトが…

頑張ったことが成しとげられた  
あきらめなくて良かった

こんなすごい発見ができるなんて感動した → 新種のアンモナイトの発見のために、太古のロマンに触れられた

感謝 → 一箱に見つけてくれた人 → 自然に

村本さんの気持ちになれるのは?  
・部活の練習と積み重ね、大会で良い結果が出た時  
・今できないことができるようになった時  
・目標を高くして家庭学習を頑張る、テストで好成绩を残せた  
↑  
・家庭学習の目標 → あきらめず  
・部活の練習 → 大事な場面で得意

ノジュール アンモナイトの化石

7 ノート・ワークシート

道徳 ワークシート

「あきらめない心」を持って生きる

1年 組 氏名 \_\_\_\_\_

A-(4) アンモナイトの発掘に人生をかけた追究者 村本 辰雄

メモ  
「なぜ」村本さんは60年間アンモナイトを探し続けたのか。  
・アンモナイトが好きで、人生を費やしてもいい  
・ありました、ありました  
・喜び、感動、達成感、感謝  
・私は…  
・達成感、に近い  
・感謝、など  
・あきらめず見つけた探した  
・楽しみがあった  
・夢中だ、  
・見つからないと悔しい

こんな気持ちになった自分  
・今出来ない事が出来るようになった時  
・誰かに自分を認められた時

<感想>  
あきらめなければ、達成感を味わえたり、感動や喜びを持ったりするんだなと思いました。自分は習い事で書道を習っています。書道では今七段、で数か月間上の段に上がれていないので、上にあがれるように、メモの気持ちになれるように、あきらめない心を持って生きようと思います。

道徳 ワークシート

「あきらめない心」を持って生きる

1年 組 氏名 \_\_\_\_\_

A-(4) アンモナイトの発掘に人生をかけた追究者 村本 辰雄

メモ  
アンモナイトが好きだから。  
感動 → あきらめずにかつめたかった  
ありました → 喜び、感動、達成感、感謝

こんな気持ちになった自分  
・テストの結果が良かった時  
・すかさずあきらめず

<感想>  
私は、将来助産師になりたいという夢があります。でも助産師は身長が長くないとダメだからあきらめていたけど、かんばりたいなと思えることができました。今までは、このあきらめる事が、多かたけど今考えたらすこしくもないことでしたなと思いました。

【授業実践を振り返って】

村本辰雄がなぜ60年間も化石を掘り続けたのかを考えさせた後、辰雄の「ありました、ありました…」という言葉を生徒に動作化させ、「どのような思いから発せられた言葉でしょうか。」と問いかけました。生徒からは、

- ・一緒に見つけてくれた人や自然に感謝したい。(感謝の気持ち)
- ・こんなすごい新発見ができるなんて感動した。(感動や喜び)
- ・頑張ってきたことが成しとげられた。あきらめずに探し続けてよかった。(達成感)

などの発言が見られ、「感謝」「感動」等の道徳的価値と関連させながら自分との関わりで多面的・多角的に考え、「克己と強い意志」について考えを深めることができました。